

第3章 健康もりや・健やか親子21計画評価について

健康もりや・健やか親子21計画の評価は、第二次健康もりや21計画策定健康づくり部会において評価を行い、その結果を平成26年度以降の健康づくりに反映させることとしました。

健やか親子21に関しては、現在国において最終評価を実施しており、次期計画についての方向性が今後示される予定です。

健康もりや・健やか親子21計画では、4つのライフステージごとに行動目標を設定しており、これらの目標の達成状況や関連する取り組みの状況の評価などを行いました。

○ 評価の結果

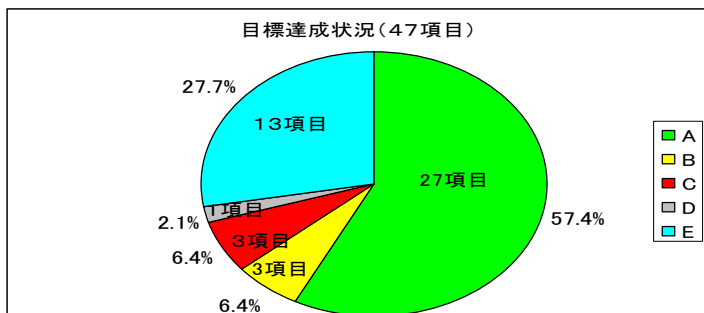
目標達成状況をA～Eの5区分に分け評価をまとめました。

健康もりや・健やか親子21計画の4つのライフステージごとの目標達成状況は、次のとおりです。

A評価の「実施した又は改善している」の割合は57.4%となっており、半数において実施又は改善がみられました。しかし、壮年期における「運動習慣」や「栄養バランスの講習回数」、高齢期の「定期的な運動習慣」はC評価の「低下している」となり、運動の習慣化が今後の計画に反映すべき課題となりました。同じく低下している項目の中に、食育に関するものが2項目あるため、食育推進計画で対応していく予定です。

【評価区分】

目標達成状況（策定時の値と現在の値を比較）	評価区分
実施した又は改善している。	A
変わらない	B
低下している	C
未実施	D
評価困難	E



図一10 健康もりや・健やか親子21 評価結果グラフ

合計

健康もりや・健やか親子21計画評価内容

1 妊娠期から乳幼児期の暮らし（妊娠期から就学前）

目指す姿：心豊かでのびのびした子どもに育つ

	目標の具体的内容	平成14年度 現状値	平成25年度 現状値	評価区分
市民の目標	朝7時に起きる子どもが増える（3歳児）	62%	74.4%	A
	夜は21時台までに寝る子どもが増える（3歳児）	15.7%	65.8%	A
地域の目標	子ども会や祭りなど子どもが参加できる活動や行事に関わる地域の人が増える	14.3%	未把握	E
	近所の子どもに対して、遊びやスポーツの相手になる関わりを持っている人が増える	11.4%	未把握	E
	子育て交流の自主的な地区活動を他の地域に広める。 5年間で2か所増やす	1グループ	子育てサークル 16グループ	A
	育児サークルや幼稚園、保育所（園）が、生活習慣について学習の機会をもつ。 1年間に5か所	未実施	講座開催数 11回：A	A
行政の目標	現在行っている自主的な子育て交流実施地区の紹介、支援をする	未実施	子育て支援センター：紹介・支援 保健センター：母子保健推進員会による子育て交流会	A
	保健センターが子どもの生活習慣の情報提供や健康教育を実施する	未実施	年4回実施	A

2 学童期・思春期の暮らし（小学生・中学生）

目指す姿：心にゆとりをもちながら生活習慣の基礎を身につけることができる

	目標の具体的内容	平成 14 年度 現状値	平成 25 年度 現状値	評価区分
市民の目標	子どもの栄養のバランスに気をつける親が増える	22.4%	未把握	E
	子どもの規則正しい生活に気をつける親が増える	37.1%	未把握	E
	子どもに食事のことを考えて食べるよう伝える親が増える	4.7%	未把握	E
	よく飲む飲み物が水や麦茶と答える子どもが増える	79%	81.3%	A
	牛乳を毎日飲む中学生が増える	45.1%	32.3%	C
	お酒を飲んだことのある子どもが減る	57.8%	未把握	E
	たばこを吸ったことのある子どもが減る	12.4%	未把握	E
地域の目標	食生活改善推進員が講師となった親子料理教室を年8回開催する	年4回 (行政と協働 で実施)	年5回 (食生活改善推進員主 催)	A
	子ども会やPTAなどで、子どもの飲酒や喫煙について話し合う機会をつくる	未実施	薬物乱用防 止指導員に よる講話 小学校1校 中学校3校	A
	ジュースの砂糖含有量モデルを作成し、学校に配布する。説明もできる講師となる	未実施	未実施	D
行政の目標	子どもの食生活に関する健康情報の提供	食生活改善推進員に対し実施	学校及び食生活改善推進員に対し実施	A

	<p>子どもの飲酒や喫煙などの問題に関する講師の紹介や健康教育（薬物・酒・たばこ・性感染症など）の支援</p>	<p>未実施</p>	<p>薬物乱用防止指導員の紹介, 薬物乱用防止啓発活動ボランティア会議の開催</p>	<p>A</p>
--	---	------------	--	----------

3 壮年期の暮らし（20歳から65歳未満）

目指す姿：生き活きと暮らせるために自分の健康管理ができる

	目標の具体的内容	平成14年度 現状値	平成25年度 現状値	評価区分
市民の目標	簡単に気分転換ができる人が増える	61.4%	未把握	E
	休息が不足している人が減る	32.9%	未把握	E
	運動する習慣のある人が増える	42.7%	37.7%	C
	たばこを吸っている人が減る	26.7%	12.9%	A
	年に1回健診を受診する人が増える	75.7%	75.7%	B
	バランスよく食べている人が増える	53.7%	54.5%	A
地域の目標	ミニ歩く会の活動が、平成19年度までに各班単位で活動計画を立て、毎月開催する。	未実施	毎月定例会開催	A
	平成19年度までにミニ歩く会のメンバーが、一般市民を対象にしたウォーキングのイベントの企画やウォーキングマップを作成する。	未実施	健康スポーツフェスティバルの歩け歩け大会を行政と協働で実施	A
	平成19年度までに、食生活改善推進員が中心になり、伝達講習会を年70回開催する。	年43回	年88回	A
	平成25年度までに公民館活動の料理教室に食生活改善推進員が講師になって年5回栄養バランスの話をする	未実施	公民館活動年間4回開催	A
行政の目標	ミニ歩く会を広報もりやなどでPR	未実施	教室等でPR	A
	イベントなどの予算確保	各担当課で予算化	各担当課で予算化	B

	歩く会会員へ健康管理情報を提供	未実施	年1回実施	A
	ウォーキング教室のPR	広報 チラシ	広報・ホームページ・チラシ・ポスターなど	A
	食生活改善推進員に対し栄養研修会の開催	中央研修会 年9回	中央研修会 年9回	B

4 高齢期の暮らし（65歳以上）

目指す姿：自立した生活を送ることができる

	目標の具体的内容	平成14年度 現状値	平成25年度 現状値	評価区分
市民の目標	70歳以上の方で健康だと思っている人が増える	56.3%	75.9%	A
	定期的に運動している人が増える	51.6%	51.1%	C
	外出していない人が減る	10.1%	9.7%	A
	社会参加している人が増える	34.5%	53.8%	A
	いろいろなものに興味をもつ人が増える	47.7%	未把握	E
	興味や習い事など学習活動を行っている人が増える	35.7%	未把握	E
	膝などの痛みのある人が減る	未把握	未把握	E
地域の目標	平成18年度までに、60歳からの人生を考える健康講座の企画・普及をする。	未実施	市民大学	A
	集会所などの身近なところで高齢者向け運動サークルを開く。 (平成19年度までに5か所開く)	未実施	シルバーリハビリ体操教室 20か所	A
行政の目標	健康講座の企画と実施・継続の支援をする。	未実施	市民大学	A
	運動サークルへの実技や知識の紹介・支援をする	未実施	シルバーリハビリ体操教室 20か所 出前サロン 24か所	A